

- 問1 律令制のもとで、正丁（成人男子）に課された税のうち、都へ赴いて年間10日間働く「歳役」という労役の代わりに、布を納めることとされたものを何とといいますか。（2016年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 雑徭 2. 租 3. 庸 4. 調
- 問2 律令制度のもとで、都へ納めるべき「調」の品目として、各地の地理的条件に合わせて選ばれたものの組み合わせとして適切なものはどれですか。（2018年 香川県公立入試 類似）
1. 外国との交易で得られた香料や貴金属 2. 都での土木工事や警備に従事するための労働力 3. 各地の口分田から収穫された大量の稲や粟 4. 海に近い国々からの塩や魚の干物、山間部からの絹や糸
- 問3 歴史上の出来事を時系列で整理したとき、7世紀初めの「遣隋使の派遣」から、11世紀末の「院政の開始」までの間に起こった出来事として正しいものはどれですか。（2022年 愛媛県公立入試 類似）
1. 承久の乱が起こり、後鳥羽上皇が幕府軍に敗れて隠岐に流された。 2. 墾田永年私財法が出され、新しく開墾した土地の永代私有が認められた。 3. 参勤交代が制度化され、諸大名が一年交代で江戸と領地を往復するようになった。 4. 地租改正が行われ、土地の所有者に地券が発行され、地価の3%を現金で納めることになった。
- 問4 奈良時代、律令国家の体制を整える一環として、朝廷は各国に命じて、その土地の地理、産物、そして古くから伝わる伝承などを報告書としてまとめさせました。この記録を何とといいますか。（2020年 神奈川県公立入試 類似）
1. 風土記 2. 万葉集 3. 日本書紀 4. 古事記
- 問5 奈良時代、律令に基づいて人々に課された租税のうち、絹、布、糸、あるいは各地の海産物などの特産物を都まで運んで納める義務を何と呼びますか。（2024年 岡山県公立入試 類似）
1. 庸 2. 租 3. 雑徭 4. 調
- 問6 奈良時代の文化を象徴する正倉院の宝物には、ペルシャ（ササン朝）風の文様が施された「漆胡瓶」や、インド産の香木などが含まれています。これらの品々が当時の日本に存在したことは、この文化がどのような性格を持っていたことを示していますか。（2016年 岐阜県公立入試 類似）
1. 鎌倉時代の武士が禅宗とともに大陸から直接輸入した、質実剛健な文化 2. 地方の豪族が独自に大陸と貿易を行って収集した、地方独自の多様な文化 3. 遣唐使を通じて、シルクロードを経由した西方の文化も伝わった国際的な文化 4. 平安時代の貴族が日本の自然や風土に合わせて作り上げた、日本独自の文化
- 問7 奈良時代の出来事を記した略年表において、聖武天皇が国分寺建立の詔（みことり）を出した時期と同時期に栄えた「天平文化」の特色を説明したものとして、正しいものはどれか。（2020年 静岡県公立入試 類似）
1. 遣唐使によってもたらされた唐の文化の影響を強く受け、国際色豊かな特色をもつ。 2. 国学や蘭学が発達し、庶民の間でも読み・書き・算盤が普及した。 3. 平氏一族が権力を握り、厳島神社の造営など貴族的な文化が華開いた。 4. 武士の台頭を背景に、力強く素朴な気風をもった文化が全国的に広まった。
- 問8 8世紀初頭の710年に、唐の都である長安をモデルとして奈良の地に遷された都を何とといいますか。712年に『古事記』が編纂された際の政治の中心地としても知られています。（2018年 鳥取県公立入試 類似）
1. 平城京 2. 長岡京 3. 平安京 4. 藤原京
- 問9 8世紀に編纂された「風土記」の内容や目的について述べた文として、最も適切なものはどれかを選びなさい。（2017年 千葉県公立入試 類似）
1. 中央政府が地方の実態を把握するため、国ごとに郷土の地理や地名の由来、伝承などをまとめさせた。 2. 租・庸・調などの税を確実に徴収するため、農民の戸籍や口分田の面積を地方ごとに記録した。 3. 天皇による統治の正当性を示すため、神話から続く国家の成り立ちを年代順に記録した。 4. 仏教による国家の安定を願って、全国に建立された国分寺や国分尼寺の由来を詳しく記した。
- 問10 奈良時代の743年に制定された、新しく開墾した土地を永久に自分のものにすることを認めた法律を何とといいますか。（2018年 沖縄県公立入試 類似）
1. 太閤検地 2. 三世一身の法 3. 班田収授法 4. 墾田永年私財法
- 問11 七百年に平城京へ都が移ってから七百九十四年に平安京へ都が移るまでの期間、当時の天皇が「鎮護国家の思想」に基づいて実施した政策として、正しいものはどれですか。（2023年 高知県公立入試 類似）
1. 貴族の権力争いを防ぐため、武士を登用して警備を強化した 2. キリスト教の布教を禁止し、寺請制度によって民衆を寺院に登録させた 3. 全国各地に神社を建て、天照大神を祀ることで国家の統一をはかった 4. 国ごとに国分寺・国分尼寺を建立させ、都に大仏を造立した
- 問12 8世紀後半の東大寺の荘園を示す絵図において、土地は格子状に整然と区画されており、その区画は現代の地形図に見られる田の境界線とも一致しています。このような、当時行われていた土地の区画制度を何とといいますか。（2024年 神奈川県公立入試 類似）
1. 条里制 2. 検地 3. 地租改正 4. 班田制
- 問13 律令制度において、各地の特産物である絹や布、あるいは海産物の加工品などを都まで運び、直接納めることが義務付けられていた税を何と呼びますか。（2016年 山形県公立入試 類似）
1. 雑徭 2. 庸 3. 租 4. 調
- 問14 8世紀初めの史料において、個人の姓名や年齢とともに「口分田」の面積が詳細に記録されている背景には、国家のどのような目的があったと考えられますか。最も適切な説明を選びなさい。（2024年 福島県公立入試 類似）
1. 地方の豪族が独自に開墾した土地を保護し、貴族の勢力を弱めるため 2. 土地と人民を国家が直接支配し、税の徴収や兵役の割り当てを確実に行うため 3. 農民に土地の私有を認め、自由に売買させることで農業生産力を高めるため 4. 仏教の力で国を護るため、寺院に寄付する土地の範囲を明確にするため
- 問15 奈良時代、聖武天皇は相次ぐ反乱や疫病といった社会不安を鎮め、国家を安定させるために仏教の力を利用しようと考えました。このように、仏教の教えによって国を守ろうとする思想を何と呼びますか。（2026年 北海道公立入試 類似）
1. 鎮護国家の思想 2. 尊王攘夷の思想 3. 末法思想 4. 神仏習合の思想

答え合わせ・解説

問1	答え 3 庸	律令時代の中心的な税制（租・庸・調）の一つです。もともとは都での肉体労働が義務付けられていましたが、その労働を免除される代わりに、一定の長さの布を納める仕組みが整えられました。これに対し、収穫した稲を納めるものは「租」、各地の特産物を納めるものは「調」と呼ばれます。
問2	答え 4 海に近い国々からの塩や魚の干物、山間部からの絹や糸	「調」はその土地の産物を納める制度であり、繊維製品（絹、糸、布など）のほか、塩、海産物、鉄、漆などの特産品が指定されていました。これらは都に送られた後、役人の給与や政府の運営費用に充てられました。稲を納めるのは「租」、労働の代わりとして布を納めるのは「庸」であり、特産品を基本とする「調」とは区別されます。
問3	答え 2 墾田永年私財法が出され、新しく開墾した土地の永代私有が認められた。	遣隋使の派遣は飛鳥時代（600年～）、院政の開始は平安時代後期（1086年）の出来事です。743年に制定された墾田永年私財法は、その中間の奈良時代にあたります。他の選択肢については、承久の乱が鎌倉時代、参勤交代が江戸時代、地租改正が明治時代の出来事であるため、示された期間にはあてはまりません。
問4	答え 1 風土記	律令政府が地方の実態を把握するために、713年に諸国へ編纂を命じた地誌です。各地の産物や土地の肥沃さ、地名の由来となった伝承などが詳しく記されており、当時の地方の様子を知るための貴重な史料となっています。選択肢にある『古事記』や『日本書紀』は歴史書、『万葉集』は和歌集であり、地理や産物を主目的とした記録ではありません。
問5	答え 4 調	律令体制下における主要な税の一つで、地方の特産物を都に納める制度です。平城京の遺跡から発見された木簡（荷札）には、塩などがこの税として運ばれた記録が残っています。土地に対して課される「租」とは異なり、成人男性（正丁など）の個人に対して課されました。
問6	答え 3 遣唐使を通じて、シルクロードを経由した西方の文化も伝わった国際的な文化	当時の唐の都である長安は国際都市であり、シルクロードを通じて西アジアやインドの文化が集まっていました。遣唐使がそれらを日本に持ち帰ったため、奈良時代の文化は日本にとどまらない国際的な広がりを持つことになりました。正倉院は「シルクロードの終着点」とも称されます。
問7	答え 1 遣唐使によってもたらされた唐の文化の影響を強く受け、国際色豊かな特色をもつ。	天平文化は奈良時代の最盛期である聖武天皇の時期に花開いた。遣唐使が中国の唐から最新の制度や仏教、芸術を持ち帰ったため、大陸的な影響を強く受けている。正倉院の宝物にはペルシャ風の楽器やガラス器が含まれており、当時の日本が世界的な文化交流のネットワークの中にあったことを示している。
問8	答え 1 平城京	元明天皇によって、それまでの藤原京から現在の奈良市付近へと遷都された都です。碁盤の目のように区画された「条坊制」が採用され、律令国家の体制を整える象徴となりました。この都が置かれた約70年間を一般に奈良時代と呼び、同時期には『古事記』や『日本書紀』などの歴史書、歌集である『万葉集』などがまとめられました。
問9	答え 1 中央政府が地方の実態を把握するため、国ごとに郷土の地理や地名の由来、伝承などをまとめさせた。	風土記は、律令制度が整う中で地方の情報を中央に集約するために作成されました。各国の自然環境や経済的資源（産物）、さらにはその土地に根付いた文化や神話を文字で記録させることで、中央政府による全国的な統治の基盤を固める狙いがありました。他の選択肢は、歴史書や戸籍の説明です。
問10	答え 4 墾田永年私財法	奈良時代、人口の増加により食糧や土地が不足したため、政府は開墾を促す目的でこの法律を制定しました。それまでは「公地公民」の原則のもと、土地は国のものとされていましたが、この法律によって土地の私有化が認められるようになりました。これが後の荘園へとつながる大きな転換点となりました。
問11	答え 4 国ごとに国分寺・国分尼寺を建立させ、都に大仏を造立した	聖武天皇は、仏教による国家の安定を具体化するため、全国の諸国に国分寺・国分尼寺を建てることを命じました。また、その総本山的な役割を果たす東大寺を都に建設し、巨大な盧舎那仏（大仏）を造立することで、仏教の加護を受けようとした。
問12	答え 1 条里制	古代の日本で行われた土地区画の仕組みを条里制といいます。六町（約650メートル）四方の「里」を基準に、さらに細かく格子状に区画して土地を管理しました。墾田永年私財法によって成立した東大寺などの荘園でもこの仕組みが用いられており、その整然とした区画のなごりは、現在でも日本の各地で水田の境界線として確認することができます。
問13	答え 4 調	律令制度の下で成人男性に課せられた税のうち、地方の特産物を納める制度を「調」と呼びます。これに対し、収穫した稲を納めるものは「租」、都での労働（歳役）の代わりに布を納めるものは「庸」、地方での土木工事などの労働は「雑徭」として区別されていました。
問14	答え 2 土地と人民を国家が直接支配し、税の徴収や兵役の割り当てを確実に行うため	大宝律令に基づく戸籍の作成と班田収授は、天皇を中心とする中央集権体制を確立するためのものでした。国民一人ひとりの情報を台帳で管理することで、誰がどこに住み、どれだけの土地を持っているかを把握し、それに見合った税（租・庸・調）や兵役を課することが可能になりました。これは「公地公民」の理想を実現しようとする制度でした。
問15	答え 1 鎮護国家の思想	聖武天皇の時代は、天然痘の流行や藤原広嗣の乱など、社会的に不安定な状況が続いていました。これらを解決するために、仏教の教えを政治に取り入れ、国家の安泰を願う「鎮護国家」の思想が推進されました。その具体的な施策として、全国に国分寺・国分尼寺が建立されることとなりました。